

第3回郡上市総合計画審議会 要録

- 【開催日時】 令和3年6月10日（木）13：30～14：50
【開催場所】 八幡防災センター研修室
【出席者】 委員：別添出欠名簿のとおり（出席20名、欠席10名）
事務局：市長公室長 日置 美晴、企画課長 入木田 瑞樹
政策推進課長 永瀬 浩臣、林務課長 河合 智
企画課長補佐 高田 和範、企画課長補佐 鷺見 一久

進行：企画課長

1. 開会 13：30

2. あいさつ

※上村会長

※日置室長

3. 協議事項（進行：会長）

（1）第2次郡上市総合計画（改訂）案について

会長：事務局より説明を求める。

事務局：第2次郡上市総合計画（改訂）案について説明（企画課長補佐）

※山林の境界確定について河合林務課長より説明

※基本目標6について政策推進課長より説明

会長：山林の境界確定の趣旨について委員より説明を求める。

委員：趣旨についてご説明させていただく。産業・基盤部会で意見させていただいたことであるが、今後、山林には環境譲与税という多額の税金が充てられることは皆ささんご存じかと思う。郡上市にも非常に大きなお金が山林の関係で流れ込む。それは山林の整備だけに使われると思っているかもしれないが、実は環境譲与税の使い方によっては、山林を改善できる余地があることを山林関係者に聞いている。山林は結局どうしようもないと思っている方は多いと思うが、今、山林に関しては様々な新しい取り組みが始まっている。山林を森林信託とってある程度規模を集めて、それを上手に運用することによって地域に還元するというような取り組みや、カーボンオフなど脱炭素社会との兼ね合いでいろいろな新しい取り組みが始まろうとしている。今まで価値がないと思われていた山林が、財産に変わりうる時代が来ているのではないかと思う。しかし、新しい取り組みをする時に、山林の所有者がわからなくて事業が止まるということが起こっている。そうなってしまう一番の原因が、境界が不明確であるということである。先ほど境界確定に手間と時間とお金がかかることを担当課の方から説明

を受けたが、それをやってほしいという訳ではない。その境界確定の前提となる情報集約だけでも、市が音頭を取ってまとめることに大きな意義があるのではないかということ部会で述べさせていただいた。境界確定自体はほぼ不可能と認めていただいて良い。境界確定しないで何の意味があるのかということ、例えば大きな単位の一山の所有者を確定できれば、全所有者の同意を得て、その山をまとめられるという可能性がある。今後の時代の流れを見据えて、今最低限のところをやらないかと提案した。郡上市ではこういった取り組みが必要ではないか。その最低限のところを確認できる方が明日にでもお亡くなりになるギリギリ切迫した時代に到来しているので、境界確定という言葉にとらわれず、情報を整理し直してほしい。このままでは環境譲与税は何にも使われずに終わってしまうのではないかと危惧している。大変だとは思いますが情報の集約化だけなので、私はできると思う。よろしく願います。

会 長：基本計画について次回部会で審議いただく。

(2) 答申(案)について

会 長：事務局より説明を求める。

事務局：答申(案)について説明(企画課長補佐)

会 長：委員より意見を求める。

会 長：総括的事項及び分野別事項について次回部会にて審議いただく。

4. その他

- ・次回部会について事務連絡

5. 閉会 14:50

※山下副会長